新医学系指針対応「情報公開文書」改訂フォーム　　単施設研究用

緑内障手術後の漿液性脈絡膜剥離に対する 30G 針を用いた経結膜的排液法の検討

１．研究の対象

2022 年 10 月 1 日から 2026 年 5 月 31 日までに、当院で緑内障手術後に生じた漿液性脈絡膜剥離に対して、30G 針を用いた経結膜的排液処置を受けられた方を対象とします。

２．研究目的・方法

◆　研究の目的

緑内障手術後には、眼圧が低くなることなどにより、眼球の壁の一部である脈絡膜と強膜の間に液体がたまり、脈絡膜剥離を生じることがあります。多くは保存的治療で改善しますが、脈絡膜剥離が高度な場合や遷延する場合には、たまった液体を排出する処置が必要になることがあります。

当科では、こうした症例に対して、通常診療として細い 30G 針を用いて脈絡膜上腔にたまった液体を経結膜的に排出する処置を行ってきました。そこで本研究では、この 30G 針による排液処置を受けた方の診療情報と眼底画像を振り返って調査し、排液前後で脈絡膜剥離の範囲や隆起がどの程度変化したか、再度排液が必要となったか、処置に伴う合併症がなかったかなどを検討することを目的としています。

◆　研究の方法

カルテ記録から、年齢、性別、緑内障の種類、治療歴、視力・眼圧等の眼科検査結果、先行する緑内障手術の種類、30G 針による排液処置の内容、再排液の有無・回数、処置に伴う合併症などを調査します。また、通常診療で撮影された超広角眼底画像を用い、眼底を 4 つの領域に分けて脈絡膜剥離の広がりと隆起の程度を評価し、排液前後で比較します。処置時に撮影された眼部写真・動画がある症例では、それらも個人が特定されないよう配慮したうえで研究資料として使用します。本研究のために新たな検査や処置を行うことはありません。

研究期間は 2026 年 11 月 5 日～2027 年 12 月 31 日までです。

利用又は提供を開始する予定日は 2026 年 11 月 5 日以降です。

３．研究に用いる情報の種類

年齢、性別、病歴、緑内障の種類、治療歴、視力・眼圧等の眼科検査結果、先行する緑内障手術の種類、排液処置の内容、再排液の有無・回数、合併症、超広角眼底画像、処置時の眼部写真・動画（該当する場合）、カルテ番号などの情報を用います。

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

＜照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先＞

〒783-8505　高知県南国市岡豊町小蓮　高知大学医学部附属病院眼科
電話番号：088-880-2638
研究責任者：三浦　悠作

----------**以上**